

## トップメッセージ

# 平成26年度半期決算の概況等について報告いたします



農林中央金庫  
経営管理委員会会長  
萬歳章

農林中央金庫  
代表理事理事長  
河野良雄

平成26年度は、昨年度からの3年間を計画期間とする「中期経営計画」に基づき、「農林水産業と食と地域のくらしを支えるリーディングバンク」の実現に向けた各種の取組みを進めております。

平成26年度半期の金融市場は、米国を中心に緩やかな景気回復が継続する先進国の金融政策動向に注目が集まるなか、米国連邦公開市場委員会の委員による低金利環境の長期化を示唆する発言や、欧州中央銀行の理事会による追加緩和策の決定等により、長期金利は各国ともに低下基調で推移しました。株価についても、良好な経済指標を背景に、米国で市場最高値を更新する等、期中を通じて堅調な動きとなり、日本では期末にかけて米国の利上げ前倒し観測を受けた急速な円安ドル高が進行し、株高が進みました。このような環境において、資金収支を安定的に積み上げるべく財務運営を行った結果、当金庫の平成26年度半期決算は、2,742億円の連結経常利益を確保するとともに、連結自己資本比率は普通出資等Tier 1比率16.86%、Tier 1比率16.98%、総自己資本比率24.51%と高い水準を維持することができました。

農林水産業と食と地域のくらしに貢献する取組みにつきましては、被災地復興をはじめ、担い手への対応力強化、農林水産業の収益力強化、地域活性化への貢献に向けた幅広い取組みを展開しております。また、系統信用事業（JAバンク・JFマリンバンク）の強化・拡大を図るべく、利用者基盤の再構築・拡充や、経営管理態勢の強化、業務インフラの構築・運営、系統人材開発の取組み等も進めているところです。

当金庫は、平成25年12月に創立90周年をむかえました。JAバンク、JFマリンバンク、JForestグループおよび当金庫といたしましては、今後とも、協同組合ならではの役割・機能を発揮しつつ、みなさまから安心・信頼される金融機関・組織を目指していくとともに、農林水産業・農山漁村の振興に貢献する取組みを進めてまいります。

最後になりますが、JAバンク、JFマリンバンク、JForestグループおよび当金庫を、これまで以上にお引き立て賜りますよう、お願い申し上げます。

平成27年1月

農林中央金庫  
経営管理委員会会長

農林中央金庫  
代表理事理事長

萬歳 章 河野良雄

# 平成26年度半期決算の概況

## ■ 損益の概況

当半期の連結経常利益は、前年同期比1,250億円増益の2,742億円、連結半期純利益は前年同期比921億円増益の2,126億円となりました。

また、当金庫単体の経常利益は前年同期比1,311億円増益の2,747億円、半期純利益は前年同期比983億円増益の2,142億円となりました。

## ■ 残高の概況

当半期末の連結総資産は90兆8,023億円で前年度末に比べて7兆6,586億円増加しました。連結純資産は前年度末比4,524億円増加の6兆4,289億円となりました。

また、当金庫単体の総資産は前年度末比7兆6,047億円増加の89兆9,609億円となりました。主要な勘定残高については、資産の部では貸出金が18兆9,300億円、有価証券が54兆3,463億円となりました。負債の部では預金が51兆4,968億円となり、農林債が3兆8,116億円となりました。

## ■ 自己資本比率

当半期末の国際統一基準による連結自己資本比率は、普通出資等Tier 1比率が16.86%、Tier 1比率が16.98%、総自己資本比率が24.51%となりました。また、単体自己資本比率は、普通出資等Tier 1比率が16.87%、Tier 1比率が16.99%、総自己資本比率が24.73%となりました。

## 主要な経営指標の推移

〈連結〉

(単位:億円)

	平成24年度半期	平成24年度	平成25年度半期	平成25年度	平成26年度半期
連結経常収益	5,560	9,934	6,224	10,869	6,987
連結経常利益	1,439	1,027	1,492	1,903	2,742
連結半期(当年度)純利益	1,310	1,198	1,205	1,557	2,126
連結半期(当年度)包括利益	2,187	9,497	△ 971	2,513	5,237
連結純資産額	50,363	57,672	56,190	59,765	64,289
連結総資産額	740,654	814,968	829,725	831,436	908,023
連結自己資本比率(国際統一基準)					
普通出資等Tier1比率(%)		16.01	17.11	17.43	16.86
Tier1比率(%)		16.13	17.26	17.56	16.98
総自己資本比率(%)	27.09	23.56	24.43	25.24	24.51

注 「連結自己資本比率(国際統一基準)」は、「農林中央金庫がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農林水産省告示第4号)に基づき算出しております。なお、平成24年度半期は旧告示(バーゼルⅡ)に基づく連結自己資本比率を記載しております。

〈単体〉

(単位:億円)

	平成24年度半期	平成24年度	平成25年度半期	平成25年度	平成26年度半期
経常収益	5,454	9,708	6,122	10,623	6,941
経常利益	1,394	881	1,435	1,751	2,747
半期(当年度)純利益	1,268	1,068	1,158	1,431	2,142
出資総額	34,259	34,259	34,259	34,259	34,259
出資総口数(千口)	34,064,889	34,064,889	34,064,889	34,064,889	34,064,889
純資産額	50,138	57,349	55,813	59,219	63,765
総資産額	734,937	808,610	822,736	823,562	899,609
預金残高	433,726	474,564	487,883	497,311	514,968
農林債残高	48,583	46,192	43,073	40,375	38,116
貸出金残高	162,378	161,276	169,837	172,950	189,300
有価証券残高	448,132	500,723	499,003	529,014	543,463
職員数(人)	3,289	3,289	3,345	3,323	3,419
単体自己資本比率(国際統一基準)					
普通出資等Tier1比率(%)		15.98	17.09	17.43	16.87
Tier1比率(%)		16.10	17.24	17.56	16.99
総自己資本比率(%)	27.36	23.77	24.67	25.47	24.73

注1 預金残高には譲渡性預金を含みません。

注2 「単体自己資本比率(国際統一基準)」は、「農林中央金庫がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農林水産省告示第4号)に基づき算出しております。なお、平成24年度半期は旧告示(バーゼルⅡ)に基づく単体自己資本比率を記載しております。

# 農林中央金庫の取組み

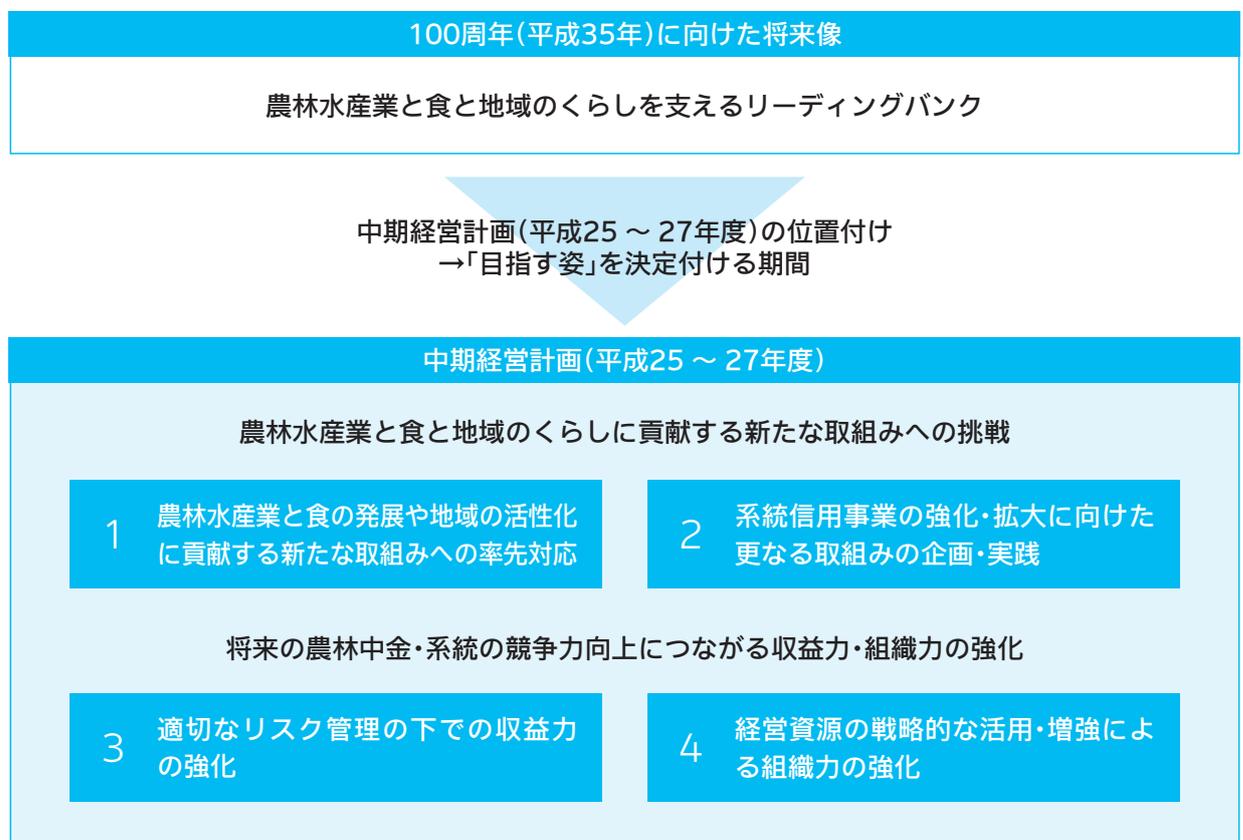
## 中期経営計画の概要

当金庫は、平成25年度から平成27年度までの3年間を計画期間とする「中期経営計画(平成25～27年度)」に基づく業務運営を行っています。

中期経営計画においては、「新たなステージへの挑戦」を掲げ、更なる収益力・組織力の強化を図ることにより、わが国の成長産業と期待されている農林水産

業の成長実現や、被災地復興を含めた地域の持続的発展、ならびに人材育成をはじめとする系統信用事業(JAバンク・JFマリンバンク)の将来的な強化に資する取組みに率先して挑戦し、「農林水産業と食と地域の暮らしを支えるリーディングバンク」の実現に向けた取組みを進めることとしています。

### 中期経営計画(平成25～27年度)



## 震災復興支援の取組状況

### 復興支援プログラムの概要

当金庫は、東日本大震災により甚大な被害を受けた農林水産業の復興を全力かつ多面的に支援するため、平成23年4月に「復興支援プログラム」を創設し、被災された農林水産業者への支援や、被災会員への事業・経営支援等を行っています。

#### ● 生産者・地域への復興支援

被災された農林水産業者等の経営再建に向けて、復

興ローン(東北農林水産業応援ローン)による長期低利資金の供給や、当金庫の関連法人であるアグリビジネス投資育成(株)を通じた復興ファンド(東北農林水産業応援ファンド)による資本供与、再建計画の策定支援等に取り組んでいます。

被災地の復興プロジェクトには構想段階から積極的に関与し、地域の復興実現に向けて、各種の支援を実施しているところです。また、JAバンク・JFマリンバンクによる農漁業者への災害資金に利子補給を行

い、農漁業者の借入負担を支援するとともに、農機・園芸施設等をリース方式で取得する農業者へのリース料助成等、幅広い金融支援を展開しています。



米集荷資機材の導入支援



試験操業に用いられる保冷水費用の助成



木製ベンチの寄贈

このほか、農業者の営農再開に向けた資機材費用の助成や、養殖漁業者への海苔ダンボールケース費用の助成、福島県漁業者への試験操業費用の助成、復興商談会の開催等、きめ細かな非金融面の支援も行っています。地域のコミュニティスペースには、地元産木材を使用したベンチ・テーブル等を寄贈しました。

### ● 会員・利用者への復興支援

震災特例支援の枠組みにより資本増強を実施したJA(農協)・JF(漁協)には、職員派遣を通じた信用事業強化指導計画に基づく指導・助言等を実施し、金融機能の維持・発揮に向けた取組みを支援しています。

被災されたJAバンク・JFマリンバンクの利用者には、JAバンクにおける相談窓口(コールセンター)の継続設置や、JFマリンバンクにおける可動式端末機の活用等を通じて、安定的な金融機能を提供しています。また、JAバンク・JFマリンバンクによる復興応援定期貯金・復興応援ローンの取組支援や、二重債務問題・防災集団移転促進事業への適切な対応等を通じた生活再建支援にも取り組んでいます。

今後とも、本支店役職員と被災会員に派遣した職員等が一体となり、行政・関係団体とも連携しつつ、震災復興に向けた取組みを進めます。

商品名	件数	金額
復興ローン (東北農林水産業応援ローン)	融資件数 77件	融資額 276億円
復興ファンド (東北農林水産業応援ファンド)	投資件数 23件	投資額 4億円
リース料助成	助成件数 652件	リース料総額 30億円
JA・JF災害資金への 利子補給	支援件数 3,846件	融資額 145億円

\*平成26年9月末までの累計実績

## 農林水産金融の取組み

### ■ 農林水産金融機能強化に向けた取組み

当金庫は、会員および農林水産業への貢献を第一に、協同組織中央機関としての一層の機能発揮のための取組みを展開しています。平成25年度からの中期経営計画においても、「農林水産業と食の発展や地域の活性化に貢献する新たな取組みへの率先対応」を掲げています。

当金庫は、中期経営計画を实践するため、「地域の農林水産業の担い手支援」、「事業力強化への支援」、

「地域活性化への支援」を農林水産金融機能強化に向けた3つの柱として掲げ、多様な施策に取り組んでいます。

### ■ 地域の農林水産業の担い手支援の取組み

当金庫は、農林水産業のメインバンクとして、農林水産業の担い手への資金提供を通じ、わが国の農林水産業と系統団体の発展を金融面から支援しています。

## ● 多様な金融ツール(融資・出資)の提供

### 融資の提供

将来の地域農業の担い手と期待される農業法人の方に対しては農業生産および農産物の加工等に関する運転資金等として、原則無担保・無保証で貸付を行う「農業法人育成貸出(愛称:アグリシードローン)」,等を取り扱っています。

商品名	融資件数	融資残高
アグリシードローン (平成21年12月取扱開始)	40件	374百万円

\*平成26年9月末までの累計実績

以上のような直接融資のほか、JAバンクの農業融資の利用者に対し、当金庫から最大1%の利子助成を行うなど、農業者の金利負担の軽減を図っています。平成26年度半期は9万件・15億円の助成を実施し、平成26年度までの累計で、39万件の農業貸出に対し66億円の助成を行いました。

なお、平成26年3月には、同年2月の豪雪により被害にあわれた農業法人のみなさまの営農再開を後押しすべく、「平成26年豪雪対策ローン」を創設し、同年6月に、第1号案件として50百万円を実行しました。



アグリシードローン融資先の蕎麦畑



アグリシードローン融資先の農場

### 資本供与スキームの拡充

平成22年より、農業法人等向けに資本を供与する枠組みとして「アグリシードファンド」を創設し、アグリビジネス投資育成(株)・JAバンクアグリ・エコサポート基金と連携して、資本過小ながら技術力のある農業法人へ出資することにより、財務の安定化や事業の発展を支援しています。これまでの投資決定件数は125件に達し、出資先の農業法人は各地域・業界の中核的な担い手として着実な成果をあげています。

平成25年6月には、耕作放棄地の利用・農地集積や6次産業化を図る農業法人の規模拡大ニーズにこた

えるため、新たに「担い手経営体応援ファンド」を創設し、これまで9件の投資を決定しました。

商品名	投資件数	投資金額
アグリシードファンド (平成22年4月取扱開始)	125件	1,026百万円
担い手経営体応援ファンド (平成25年6月取扱開始)	9件	204百万円

\*平成26年9月末までの累計実績



アグリシードファンド出資先の  
花壇苗農園



アグリシードファンド出資先の  
ネギ畑

## ● 日本農業法人協会との連携強化

平成26年2月、全国約1,800社の先駆的な農業法人を擁する公益社団法人日本農業法人協会と、包括的なパートナーシップ協定を締結しました。農業法人の設備投資や経営の効率化、農畜産物の付加価値向上など、協会の会員が抱える課題に円滑に取り組めるようにするほか、当金庫のもつネットワークを活用し、取引先の開拓や農畜産物の輸出など幅広く支援することとしています。

大規模な農業経営者をもつ経営ノウハウの共有化や、JAグループの金融機能の活用を通じて、農業、食、地域の活性化のため、農業界一体となって取り組んでまいります。

## ■ 事業力強化への支援

農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援、輸出拡大支援、農林水産業の6次産業化による付加価値の向上、系統や業界の枠組みを越えた連携に広く取り組んでおり、「農林水産業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

### 商談会・ビジネスマッチングへの取り組み

当金庫では、系統の全国組織としての特色を活かし、系統団体・農林水産業者、および法人取引先等の事

業上のニーズを収集し、組織同士の恒常的な取引に繋げるビジネスマッチングや商談会を実施しています。

平成26年度(平成26年9月末時点)には18件のビジネスマッチングが成約し、平成21年度の取組み開始以降の成約実現数は346件となりました。また、平成25年度には、全国商談会、地域商談会など計11回を開催し、参加したセラー団体およびバイヤー企業から高い評価をいただきました。引き続き、販路拡大を支援してまいります。

開催地	開催時期	名称	セラー団体数	バイヤー企業数	商談数
福島県	平成26年9月	食の商談会 ふくしまフードフェア2014	165	314	394

### 輸出サポートの取組み

会員・農林漁業者等の輸出サポートとして、平成26年8月、アジア最大級の食の商談会「香港フード・エキスポ2014」にJA全農(全国農業協同組合連合会)・JF全漁連(全国漁業協同組合連合会)・日本農業法人協会と連携し出展しました。JA系統2団体、JF系統1団体、農業法人3団体、6次化ファンド出資先2団体、その他3団体が参加し、香港をはじめとするアジア各国のバイヤーと商談を行いました。また、海外市場動向などの情報提供や、個別相談を行う輸出セミナー等も開催しています。



香港フード・エキスポ2014



ふくしまフードフェア2014

### 農林水産業協同組合ファンド(通称:JA・6次化ファンド, JF・6次化ファンド, JForest・6次化ファンド)

当金庫を含むJAグループは、一体となってグループの総合力・組織力を発揮し、農林水産業の6次産業化の促進を図っていく方針を打ち出しています。

平成25年5月、農林漁業成長産業化支援機構(A-FIVE-J)と系統の出資によるサブファンド「農林水産業協同組合ファンド(通称:JA・6次化ファンド,

JF・6次化ファンド, JForest・6次化ファンド)」を設立しました。6次産業化に取り組む農業・水産業・林業事業体や、JA・パートナー企業等が構成する事業体に対し、事業計画の策定支援をはじめ、資金面・事業面・経営面での多様なサポートを行っています。

設立以降、農林漁業者とパートナー企業の合弁出資等により設立される6次化事業体に対して、7件の投資を決定(平成26年10月末時点)し、全国に50ある同種のファンドの中で最多の投資実績を確保しています。今後も本ファンドの活用等を通じ、地域の農林水産業の更なる発展に貢献してまいります。



ファンド出資先の炊飯米・惣菜類・弁当の製造販売事業



ファンド出資先の農産物を原料とする食品加工販売事業

### “食と農の競争力強化”に向けた研究会の設置

JA全農・みずほ銀行と三者で「食と農の競争力強化に向けた研究会」を平成25年8月に設置し、日本の農業・食品関連産業の競争力強化に向け、6次産業化や輸出などを含めた今後の連携可能性を検討する枠組みを構築しました。生産者の所得向上や地域の農業生産の振興、輸入農畜産物から国産農畜産物への回帰などを研究テーマとし、農畜産物の高付加価値化や食品関連産業との連携によるバリューチェーン構築等に向け、順次、三者協調の下での具体策を検討してまいります。

### ■ 地域活性化支援の取組み

地域経済の活性化や地域循環型社会の構築に資する取組みとして、再生可能エネルギー事業への支援や、第一次産業への理解を深める取組みとして、食農教育応援事業を支援しています。

### ● 再生可能エネルギー事業への取組み

JAグループでは農林水産業との調和のとれた地域活性化につながる再生可能エネルギー事業に対し、地域・農業者の代表として積極的に関与することとして

おり、当金庫はJA共済連(全国共済農業協同組合連合会)とともに「農山漁村再エネファンド」を立ち上げ、地域主導の再生可能エネルギー事業に対し金融面から支援する体制を構築しています。

平成26年度半期には、「農山漁村再エネファンド」の第1号案件として、地域の耕作放棄地解消策と連動して取り組む太陽光発電事業への投資、第2号案件として地元林業関係者による木質バイオマス発電事業への投資を決定しました。

今後も農林水産業の振興と地域経済の活性化に資する再生可能エネルギー事業に対し、金融面に限らず事業化に必要なサポートを、組合員や地域の方々から提供してまいります。



ファンド出資先の発電所

### ● 食農教育応援事業への取組み

子どもたちの農業や食料に対する理解を深め、地域の発展に貢献することを目的とした「食農教育」に対し助成を行っています。農業や食料について学習するための教材本の贈呈や、地産地消の観点から地場農産物を給食メニューへ取り入れる取組み、料理教室の開催などを支援しています。平成26年度は全国の小学校に教材本136万冊を贈呈し、各地の食農教育活動に約1千件・3億円の助成を行いました。

### ● 環境金融への取組み

当金庫は、平成22年に環境分野に配慮した取組みを実践している会員・企業を評価する「農林水産環境格付制度」を導入しました。本制度の評価対象項目には、環

境保全型の農林水産業への取組み、6次産業化への取組み等、当金庫独自の評価項目を取り入れています。平成26年度は本制度に基づく貸出を2億円実行しました。

また、平成24年にはオフセット・クレジット(J-VER)の媒介業務を開始しました。J-VER制度は国が運営する国内排出権取引制度です。農林水産業由来のJ-VER取引を媒介することで、森林整備等の環境配慮型農林業への取組みや、企業等の環境対策をサポートすることを目指しています。

### ● JAバンクの農業金融

JAバンクは、各種プロパー農業資金に対応するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。平成26年3月末時点のJAバンクの農業関係資金残高は2兆805億円(うち農業者向け貸付金1兆3,952億円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金残高は5,112億円となっています。

#### 資金種類別農業資金残高

(単位:億円)

種類	平成26年3月末
プロパー農業資金	15,377
農業制度資金	5,429
農業近代化資金	1,668
その他制度資金	3,760
合計	20,805

#### 農業資金の受託貸付金残高

(単位:億円)

種類	平成26年3月末
日本政策金融公庫資金	5,103
その他	9
合計	5,112

注1 プロパー農業資金とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

注2 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンクが低利融資するものが該当します。

注3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金(新スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

## ■ 系統信用事業の強化・拡大に向けて

### ■ JAバンクの取組み

JAバンクでは、平成25年度からスタートした「JAバンク中期戦略(平成25～27年度)」に基づき、組合員をはじめとする地域のみなさまのニーズに立脚した事業を展開し、食と農、地域社会にこれまで以上に貢献すべく取り組んでいます。

農家のみなさまのニーズへの的確なサポートを行うべく、農業金融情報の提供や農業融資商品の提案に努めることに加え、大規模個人農業者・農業法人等の多様なニーズにもおこたえるため、JAバンク全体で「県域農業金融センター機能」の拡充を図っています。具体的には、JAバンク利子助成・補給制度の拡充や低利資金の創設、訪問活動の積極的な展開など、「農業メインバンク機能」の強化に取り組まれました。あわせて、JAグループの持つ強みや特色を活かした各種商談会の開催やビジネスマッチングといった農商工連携の推進およびJA・6次化ファンドの活用支援に取り組むことで、6次産業化をサポートしています。

また、「フェイス・トゥ・フェイス」のきめ細かなサービスを通じて、貯金・国債・投資信託等の資産形成にかかる提案や、相続、融資に関する相談をはじめ、地域のみなさまのライフイベントにおける多様なニーズにおこたえし、家計やくらしに貢献できるよう努めています。加えて、提携ATM網の拡大・手数料無料化やインターネットバンキング機能の充実などを通じて、年金の受け取りや給与振込、JAカードなどをご利用いただくお客さまの利便性向上に向け、取り組んでいます。



新しいJAバンクキャラクター「ちょりす」を使ったキャンペーンポスター

### ■ JFマリンバンクの取組み

「JFマリンバンク中期事業推進方策(平成24～26年度)」に基づき、「浜の暮らしを守る信頼の金融の実現」を目指し、事業推進力の維持・強化に向けた取組みを加速しています。

平成26年度半期には、水産業の持続的発展を支える担い手の多様なニーズにこたえるため、漁業金融

相談員制度の充実を図るとともに、長期低利の制度資金である「漁業近代化資金」をより一層活用いただくため、利子助成制度にかかる対象額の上限引き上げ等の拡充を行いました。また、平成26年10月より、JF(漁協)・JF信漁連が一丸となって、個人貯金の全国一斉推進運動である「全国統一キャンペーン」を実施しており、当金庫は各県の取組みをサポートしています。このほか、発行費用にかかる助成を通じたICキャッシュカードの発行促進など、組合員に対する家計メイン化に努めるとともに、JF女性部の活動に対する支援等を通じ地域活性化にも取り組んでいます。

これからも組合員のみなさま、利用者のみなさまにJFマリンバンクを安心してご利用いただけるよう、「あんしん体制(信用事業安定運営責任体制)」のもとで健全で効率的な事業運営を進めてまいります。



全国統一キャンペーンポスター

### ■ JForestグループの取組み

JForestグループでは、持続可能な低コスト林業の確立等を目的とした「国産材の利用拡大と森林・林業再生運動」(平成23～27年度)に取り組んでいます。これまで当金庫は、施業集約化のサポートのため、GIS(地理情報システム)・GPS(全地球測位システム)の導入費用の助成、JForest(森組)経営層向けセミナーの開催等を行っています。

また、高性能林業機械の導入資金の融資をJForest(森組)に行うなど、施業効率化に向けた取組みもサポートしています。

### ■ 系統人材育成・開発の取組み

当金庫の役職員が農林水産業の現場や地域の実情を十分に理解し、その経験を企画・施策づくりにつなげるため、JA(農協)・JA信農連等と当金庫の人材交流を継続的に実施しています。また、系統団体、第一次産業従事者、農林水産業と関係の深い業界の方々を講師に招いた役職員向け講演会・勉強会を定期的開催

してきました。

また、JA(農協)の変革・革新をリードできる人材の養成に向けて、平成24年10月に開始したJA信用事業担当役員研修(累計受講者数315名)を継続するとともに、平成26年7月からはJA信用事業担当部長研修を開始しています。加えて、平成26年1月に開始した信漁連等の店舗長を対象とする「JFマリンバンク階層別研修店舗長コース」を継続しているほか、JForestグループにおいても、平成27年1月にJForest(森組)参事クラスを対象とした研修を新設する予定としてお

り、系統団体役職員トータルでの人材開発の充実に向けて取り組んでいます。

以上の取組みを通じて、地域のみなさまから選ばれ信頼される組織を目指してまいります。



JAバンク中央アカデミー 経営者コース

## 適切なリスク管理の下での収益力の強化に向けて

当金庫では、昨年度からスタートした「中期経営計画(平成25~27年度)」のもと、市場環境等を踏まえた適切な財務運営を行うとともに、競争力強化に寄与するリスク管理を実践することとしています。

具体的には、適切な財務運営を行い、引き続き財務基盤の強化に努めるとともに、グローバルに事業展開する金融機関として相応しい自己資本の水準を維持します。

また、安定的な収益基盤を確固たるものとするため、

市場環境等に対応した機動的なアセットアロケーション運営および投資ノウハウの高度化・蓄積に注力するとともに、一層の収益力強化に向けて、市場環境等をにらみつつ選別的に新しい良質な投資機会を追求します。

リスク管理につきましては、経営の競争力強化につながる取組みとして、当金庫の事業特性を踏まえた有効な牽制機能の発揮を通じ、フォワードルッキングなリスク管理等の枠組み構築と運営を行ってまいります。

### 第63回日経広告賞受賞

日本経済新聞社が主催する「第63回日経広告賞」において、農林中央金庫の企業広告が最優秀賞に、JAバンクの農業メインバンクブランド広告が金融部門優秀賞に選ばれました。

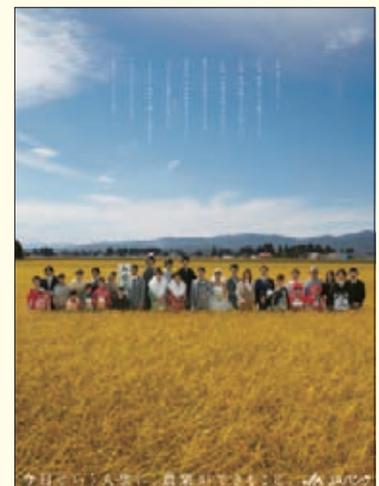
農林中央金庫の企業広告は、日本の農林水産業を支えていく当金庫の新たな取組みと、変わらない社会的役割を遂行する強い意思を伝える内容としています。広告全体を新聞の一面と見立て、上空から俯瞰する海・山・大地の景色そのものが記事として見えるように構成しています。

JAバンクの農業メインバンクブランド広告は、JAバンクが、人が生きていくことの基盤である農業を支え続けて行くことを訴求する内容としています。



農林中央金庫 企業広告

黄金色に輝く豊かな稲穂の風景と、人の人生における様々な局面を重ね合わせるにより、農業と人とのつながりを表現しています。



JAバンク 農業メインバンクブランド広告